

取扱説明書

工事説明付き

ワイヤレスアンテナ 品番 WX-SA250A



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(6～8ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。



PGQX2345YA

はじめに

商品概要

本機は、ワイヤレスマイクロホン（WX-ST200、WX-ST210、WX-ST250、WX-ST400：ともに別売品）またはポータブルワイヤレス送信機（WX-ST510：別売品）用のワイヤレスアンテナです。ワイヤレス受信機（WX-SR202A、WX-SR204A：ともに別売品）またはアンテナ給電ユニット（WX-SA001：別売品）に接続します。

- 1.9 GHz帯DECT[※]準拠方式採用により広いエリアで明瞭度の良い音質を実現し、干渉を受けることが少なく安定した通信ができます。
※DECT（Digital Enhanced Cordless Telecommunications）：デジタルコードレス電話の通信規格
- 天井設置および壁掛け設置に加え、マイクスタンド取り付けにも対応しており、簡単に設置ができます。
- 屋外設置に対応しています（IPX4相当）。雨が直接かからない、軒下などに設置が可能です。

接続できるワイヤレス受信機

本機は、ワイヤレス受信機WX-SR202、WX-SR204にも設定なしに接続できます。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）.....	1冊
保証書.....	1式
天井取付用金具.....	1個
固定金具.....	1個
天井取付用ねじ（M4×35 mm）.....	2本
本体取付用ねじ（M3×8 mm）.....	1本
木ねじ（4.1 mm×25 mm）.....	4本
結束バンド.....	1本
変換ねじ（PF1/2→W3/8）.....	1個

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、拡声ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アSEMBル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

略称について

本書では、以下の略称を使用しています。

- ワイヤレスアンテナ (WX-SA250A) を本機またはアンテナと表記しています。
- ワイヤレスマイクロホン (WX-ST200、WX-ST210、WX-ST250、WX-ST400 : とともに別売品) や、ポータブルワイヤレス送信機 (WX-ST510 : 別売品) をマイクと表記しています。
- ワイヤレス受信機 (WX-SR202A、WX-SR204AまたはWX-SR202、WX-SR204 : とともに別売品) をワイヤレス受信機または受信機と表記しています。
- アンテナ給電ユニット (WX-SA001 : 別売品) をアンテナ給電ユニットと表記しています。
- パーソナルコンピューターをPCと表記しています。

本文中に記載されている別売品などの情報は、2019年10月現在のものです。最新の情報は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

アンテナ配置について

アンテナ配置については、接続する受信機の取扱説明書に記載しています。あらかじめ受信機の取扱説明書の「アンテナ配置について」をお読みください。

はじめに

電波について

- 本機は、1895.616 ~ 1904.256 MHzの帯域を使用する、デジタルコードレス電話の無線局の無線設備です。
(一般社団法人 電波産業会 標準規格「ARIB STD-T101」準拠)
- J-DECTロゴは、DECT Forum の商標です。J-DECTのロゴは ARIB STD-T101に準拠した1.9 GHz帯の無線通信方式を採用した機器であることを示しています。同一ロゴを搭載する機器間での接続可否を示すものではありません。
- 本機の使用周波数に関わるご注意
本機の使用周波数帯では、PHSの無線局のほか異なる種類のデジタルコードレス電話の無線局が運用されています。
 1. 本機は同一周波数帯を使用する他の無線局と電波干渉が発生しないように考慮されていますが、万一、本機から他の無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、本機の電源を切り、お買い上げの販売店にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
 2. その他、何かお困りのことが起きたときは、システムお客様ご相談センター（裏表紙）へお問い合わせください。

1.9-D

J-DECT

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



● **重要** : 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



: 使用上のヒントが書かれています。

はじめに

はじめに	2
商品概要	2
接続できるワイヤレス受信機	2
付属品をご確認ください	2
免責について	3
著作権について	3
略称について	3
アンテナ配置について	3
電波について	4
記号について	4
安全上のご注意	6
使用上のお願い	9
各部の名前とはたらき	10

設置・設定

設置のしかた	12
設置上のお願い	12
天井設置	15
壁掛け設置（固定金具を使用する場合）	18
壁掛け設置 （スイッチボックスを使用する場合）	21
マイクスタンド取り付け	24
接続のしかた	25
受信機の接続	25
アンテナ給電ユニットの接続 （受信機ありの場合）	26
アンテナ給電ユニットの接続 （受信機なしの場合）	28

その他

外形寸法図	30
故障かな!?	31
仕様	32
保証とアフターサービス	33

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告



ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける

落下によるけがや事故の原因となります。

質量に耐える取り付けをする

落下や転倒によるけがや事故の原因となります。

- 十分な強度に補強してから取り付けてください。

設置の説明にしたがって天井、壁またはマイクスタンドにしっかり取り付け

けがや事故の原因となります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、においがする、外部が劣化するなど、そのまま使用すると火災・落下によるけが、器物損壊の原因となります。

- 放置せずに、直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

外郭部にひびや割れが発生した場合は、使用をやめ取り外す

落下の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

使用しなくなった、あるいは使用不可になった場合、放置せずに取り外す

種々の部品の腐食により、落下の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。



警告



地震後は必ず点検する

本体取付部が損傷し、落下の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。



禁止

医療機器に近づけない

(手術室、集中治療室、CCU等には持ち込まない)

本機からの電波が医療機器に影響をおよぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

自動ドア、火災報知機等の自動制御機器の近くで使用しない

本機からの電波が自動制御機器に影響をおよぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

可燃性ガスの雰囲気中で使用しない

爆発によるけがの原因となります。

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない

取付部が劣化し、落下によるけがや事故の原因となります。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

雷のときは工事、配線をしない

火災や感電の原因となります。

取り付けた状態での部品交換は行わない

部品の落下の危険性があり、事故の原因となります。

変形した取付金具・損傷した外郭部品を使って本機を設置しない

落下の危険性があり、事故の原因となります。



分解禁止

分解しない、改造しない

火災や感電の原因となります。

注意



工事は販売店に依頼する

工事には技術と経験が必要です。けが、器物破損の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

高所作業は資格者が行う

工事には技術と経験が必要です。けが、器物破損の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

お手入れのときは電源を切る

けがの原因となります。



禁止

電源を入れたまま工事、配線をしない

けがの原因となります。

ケーブルなどは引っ張らない

けがの原因となります。

ケーブルなどを傷つけない

重いものを載せたり、はさんだりすると、ケーブルが傷つき、けがの原因となります。

湿気やほこりの多い場所に設置しない

けがの原因となります。

使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

丁寧に取り扱いってください

- 本機は不適切な取り扱いや保管によって損傷する部品が含まれています。
- 部品に欠陥がある場合は、修理または交換してください。

使用温度範囲は

- -10°C ～ $+50^{\circ}\text{C}$ です。この範囲外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

電源について

- 本機には電源スイッチがありません。本機を電源から遮断するときはLANケーブル（14ページ）を抜いてください。

設置条件により容易にケーブルを外せないとき、本機が受信機に接続されている場合、受信機の電源スイッチを「切」にするか受信機の電源コードを抜いてください。

本機がアンテナ給電ユニットに接続され、アンテナ給電ユニットに受信機が接続されていない場合、アンテナ給電ユニットの電源コードを抜いてください。

本機がアンテナ給電ユニットに接続され、アンテナ給電ユニットに受信機が接続されている場合、受信機の電源スイッチを「切」にするか受信機の電源コードを抜くか受信機からアンテナ給電ユニットへのLANケーブルを抜き、アンテナ給電ユニットの電源コードを抜いてください。

設置条件により容易に上記ができないときは、本機と接続する受信機あるいはアンテナ給電ユニットの電源コードを遮断能力のある分電盤のサーキットブレーカーを経由した電源コンセントまたは電源制御ユニットなどのコンセントに接続してください。

通話の傍受について

- 本機は通話にデジタル信号を利用した傍受されにくい商品ですが、電波を使うため、第三者が故意に傍受するケースも考えられます。

表示について

本機の識別および電源、その他の表示は機器底面および上面をご覧ください。

お手入れについて

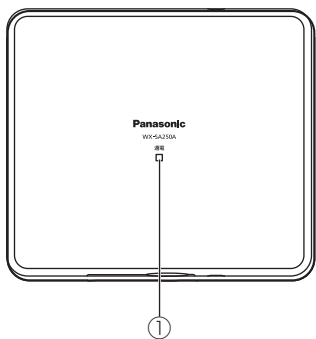
- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- スプレー式洗浄液、ホース水、高圧清掃水、高温スチームなどは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

長期間使用しない場合は

- 使用しない場合は放置せず、必ず販売店に依頼して撤去してください。

各部の名前とはたらき

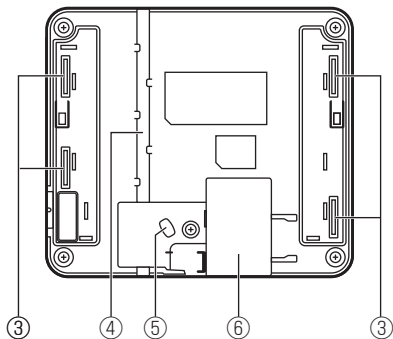
上面



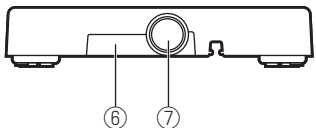
側面



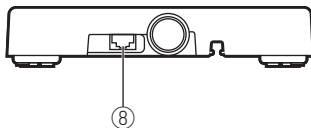
底面



側面



側面 (端子カバー内)



①電源表示灯【電源】

本機の動作状態を表示します。

点灯（緑色）：通電中

点滅（橙色）：ペアリング登録モード

点滅（赤色）：受信機との接続異常（基準アンテナ）

点灯（赤色）：受信機との通信異常、
メインシステムの基準アンテナ以外のアンテナにアンテナ給電ユニットを誤って接続

消灯：受信機およびアンテナ給電ユニットから電源が供給されていない
受信機電源「入」後に新たなアンテナ接続

交互点灯（橙色／緑色）

：受信機に接続されたPCの運用支援ソフトから確認実行中

交互点灯（赤色／緑色）

：接続先受信機のファームウェアのバージョンがV1.00のとき



- 交互点灯している場合は、受信機のファームウェアのバージョンアップが必要となります。販売店にお問い合わせください。



- ペアリング登録モード時は対象の受信機に接続されているアンテナの【電源】表示灯が橙色点滅します。ペアリング登録についてはマイクおよび受信機の取扱説明書をお読みください。

②ねじカバー

天井または壁に取り付ける場合に使用します。このねじカバーを開けて、固定金具にねじ止めします。

③フック引っ掛け部

天井または壁に取り付ける場合に使用します。固定金具のフックに引っ掛ける溝です。

④ケーブル固定溝

LANケーブル（14ページ）を通し固定するための溝です。

⑤結束バンド固定部

付属の結束バンドを通し、ケーブルを固定します。

⑥端子カバー

設置時はこのカバーを開けて、ワイヤレス受信機接続端子にケーブルを接続したあと、カバーを閉じます。

⑦スタンド取り付け穴カバー

マイクスタンド取り付け時に取り外します。

⑧ワイヤレス受信機接続端子（端子カバー内）

受信機またはアンテナ給電ユニットとの接続端子です。LANケーブルで接続してください。

設置のしかた

■ 設置上のお願ひ

警告

- 工事は必ず販売店に依頼してください。
- 工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 傷害防止のため、この機器は、取扱説明書にしたがって天井、壁またはマイクスタンドにしっかり取り付ける必要があります。

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

工事は電源を入れないで行ってください

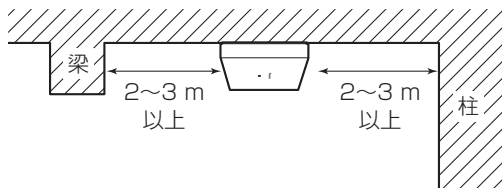
- 工事は、本機に電源が供給されていないことを確認して行ってください。また本システムに接続されているミキサーやアンプなどの電源も切ってから行ってください。接続時にスピーカーから大きなノイズが出て、機器の破損につながります。

設置について

- 高温・多湿の場所で長時間使用しないでください。部品の劣化により寿命が短くなります。設置場所の放熱を良くしたり、暖房などの熱が直接当たらないようにしてください。

設置場所について

- マイクとの到達距離の範囲内に本機を取り付けます。
- マイクを使用する場所から本機の間、ディスプレイやプロジェクターが設置されると、電波が遮蔽され音途切れの原因になります。本機は、マイクが見通せる位置に設置してください。
- 本機をできるだけ高い位置に設置してください。低い位置に設置されると運用中、本機とマイク間を横切る人の影響により音途切れや異音が発生する可能性があります。
- 本機を天井に設置する場合は柱や梁から離して（少なくとも2～3 m）見通しの良い場所に設置してください。



- 本システムは構内PHSやコードレス電話機などのDECT無線機器と同じ周波数帯（1.9 GHz帯）を使用しています。同一フロアに構内PHSやコードレス電話機などのDECT無線機器があると電波干渉して通話しにくくなったり、通話が途切れたりする場合があります。

- 銅、アルミ、鉄などの金属製の壁や床、天井で囲まれた空間で使用する場合は、電波反射が大きくなり、マルチパスフェージングという電波干渉の現象が発生しやすくなります。マルチパスフェージングが起こると電波の強さは十分でも通信エラー（音途切れ）となります。
- コンクリート壁、金属パネル（パーティション、壁面ロッカー扉など）は、電波を遮りますので、本機とマイクの間に遮蔽物がないように配置してください。



- アンテナを低い場所に設置した場合、目安の到達距離より短くなる場合があります。

以下の場所には設置しないでください

- 振動の多い場所や衝撃が加わる場所
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- プールなど化学剤が使用されている場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- マイクを使う場所から見て、黒板、ホワイトボード、ディスプレイやプロジェクターなどの背後
- 放射線やX線、および強力な電波や磁気の発生する場所
- 金属製の筐体（機器の設置されている金属ラック内）の中、天井や壁が金属で囲まれた部屋の中
- テレビ・ラジオ・パソコンなどのOA機器の近く
- CSデジタル放送受信機（チューナー、チューナー内蔵のデジタルテレビ、レコーダーなど）の近く
- PHS・携帯電話基地局の近く
- 金属で覆われたワゴンの中
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 直射日光が当たる場所
- 屋根がなく、直接、風雨にさらされる場所

無線干渉について

- 近くに強いノイズを放出する製品がある場合、本機は無線干渉を受けて使用することができないことがあります。
その場合には、無線干渉を受けない距離を確保して本機を設置してください。（参考：携帯基地局からは30 m以上離す。）
- 以下の場合、設置環境の影響を考慮するため事前に販売店にご相談ください。
 - 本機をワゴンに載せて使用する
 - すでに構内PHSを多数使用している
- 構内PHS、コードレス電話と、DECTマイクは同じ周波数帯（1.9 GHz帯）を使用しているため、使用できる最大マイク本数が制限される場合があります。

設置のしかた

電源について

- 本機には電源スイッチがありません。本機を電源から遮断するときはLANケーブルを抜いてください。設置条件により容易にLANケーブルを外せないときは、本機と接続する受信機およびアンテナ給電ユニットの電源コードを抜いてください。



- 設置の前に必ず本機に電源が供給されていないことをご確認ください。
- 設置時は、機器を固定する前に動作確認を行ってください。受信機またはアンテナ給電ユニットと接続し電源を供給します。その後マイクの音声を受信機に接続されたスピーカーから出ることを確認してください。

静電気について

- 静電気による損傷を防止するために、設置工事の前に、アースの取れた金属製のものに触れて身体に帯電した静電気を放電してください。

ねじの締め付けについて

- ねじはまっすぐ締めてください。締めたあとは、目視にて、がたつきがなく、しっかりと締められていることを確認してください。
- インパクトドライバーや電動ドライバーは、クラッチ付のものであってトルク管理が困難なため、使用すると取り付け部の破損の原因になりますので、使用しないでください。

強い衝撃を与えない

- 本機に強い衝撃を与えないでください。本機が破損するおそれがあります。

アンテナの増設について

- アンテナを増設する場合は必ず、受信機の電源を切り、アンテナ給電ユニットの電源コードを抜いてからアンテナを接続してください。受信機の電源「入」の状態ではアンテナを接続すると、接続したアンテナに電源が供給されず、使用できません。

LANケーブルについて

- ケーブルは付属していません。カテゴリ5（またはカテゴリ5e、カテゴリ6）ストレート結線のネットワークLAN対応のケーブルを別途ご用意ください。ケーブルの長さには制限があり、接続のしかたにより異なります。詳しくは「接続のしかた」（25、27、29ページ）をお読みください。

■ 天井設置

本機からケーブルを外し、以下の手順にしたがって設置してください。

1 天井パネルに孔を開ける

天井パネルにφ65 mmの孔を1つ開けます。

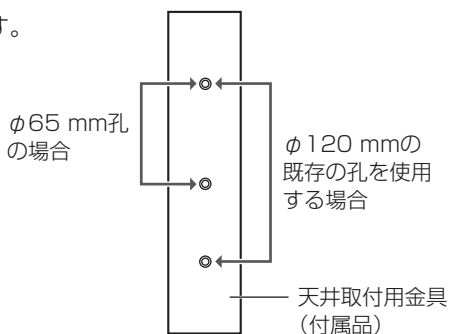


2 天井取付用金具（付属品）を設置する

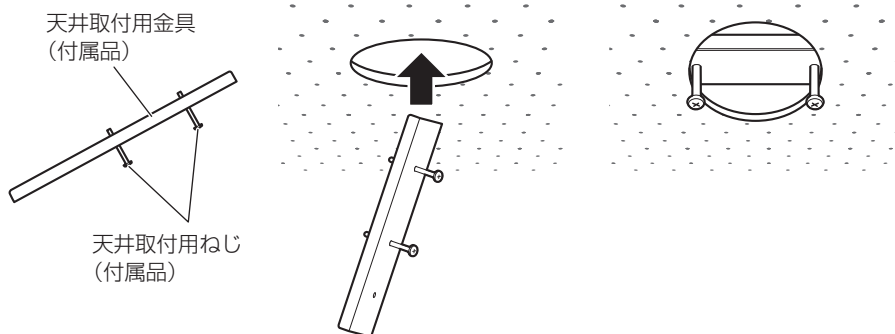
- ① 天井取付用金具に天井取付用ねじ（M4×35 mm：付属品）2本を、天井厚さより5 mm以上出るように仮にねじこみます。

天井取付用ねじ（付属品）取り付け位置（2か所）

天井孔径により取り付け位置が異なります。
右図にしたがって取り付けてください。



- ② φ65 mmの孔にねじを仮止めした天井取付用金具を通し天井裏に設置します。

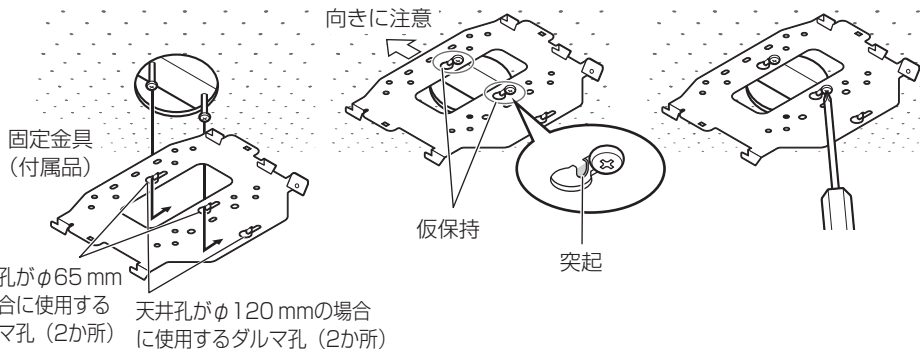


- 天井の厚さが30 mm以上の場合は、ねじ（M4×40 mm以上）を別途調達してください。

設置のしかた

3 固定金具（付属品）を固定する

- ① 固定金具のダルマ孔に、手順2で設置した天井取付用ねじを通してスライドさせ、仮保持します。
- ② 固定金具を固定します。このとき固定金具の向きに注意してください。向きが製品の上方向になります。
 - ねじ締付トルク：0.39 N・m～0.59 N・m {4 kgf・cm～6 kgf・cm}



重要

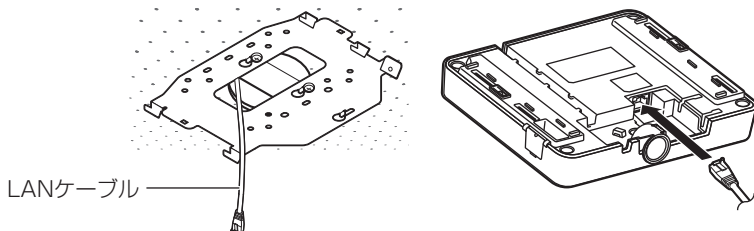
- 落下防止のため、必ず固定金具のダルマ孔（2か所）の突起を乗り越えてスライドさせて固定してください。乗り越えていない場合、本機の落下につながります。



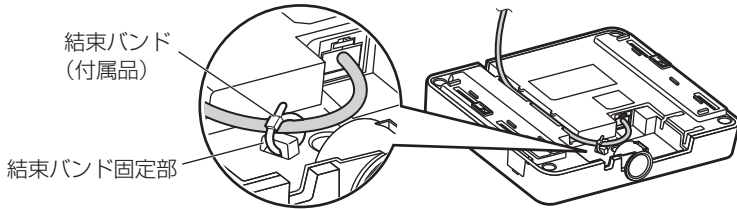
- トルクドライバーなどを使用し、指定されたトルクで確実に締め付けてください。

4 ケーブルを本機に接続する

LANケーブル（14ページ）を固定金具に通し、本機と接続します。ケーブルの接続は「接続のしかた」（25ページ）をお読みください。

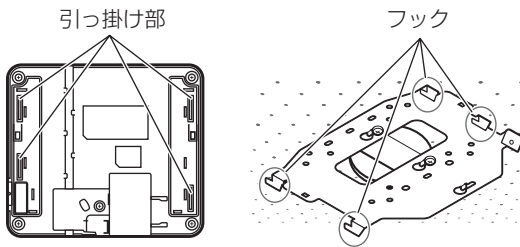


- 接続ケーブルは下図のように結束バンド固定部に付属の結束バンドを通し、固定したあと、本機底面のケーブル固定溝に途中まで通すと、本機設置時のケーブルの挟み込みが避けられます。



5 本機を設置する

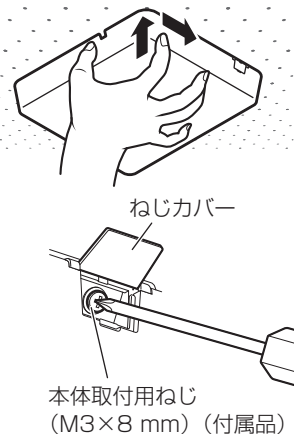
- ① 本機を固定金具のフックに引っ掛けます。(4か所)



- ② 本機側面のねじカバーを開けて、付属の本体取付用ねじ (M3×8 mm) を使って本機を固定金具に固定します。

- ねじ締付トルク：0.59 N・m～0.69 N・m
{6 kgf・cm～7 kgf・cm}

- ③ ねじカバーを閉じます。



- 落下防止のため、必ず本体取付用ねじを確実に締め付けてください。締め付けなかった場合、本機の落下につながります。



- トルクドライバーなどを使用し、指定されたトルクで確実に締め付けてください。
- ドライバーはマグネット付のビットを使用してください。

6 設置を確認する

設置完了後、すべての個所がきちんと固定されているか確認してください。緩んだ部分などがないかどうか確認してください。

設置のしかた

■ 壁掛け設置（固定金具を使用する場合）

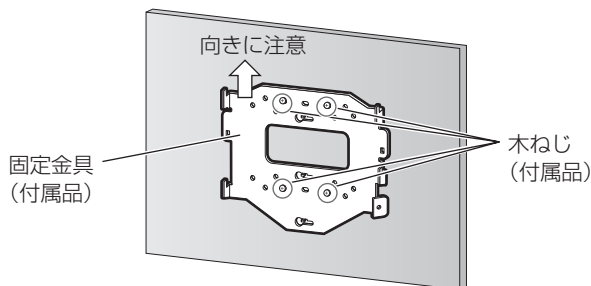
本機からケーブルを外し、以下の手順にしたがって設置してください。



- 壁に設置する場合には、本機の高さを1.5 m以上にしてください。本機を低い場所へ設置する場合、目安のカバーエリアより短くなる場合があります。特に、本機とマイクの間を人が通過するような配置、金属製機器、家具は電波を遮蔽しやすいため、無線接続が不安定になったり、通話が途切れる場合があります。

1 壁に固定金具をねじ止める

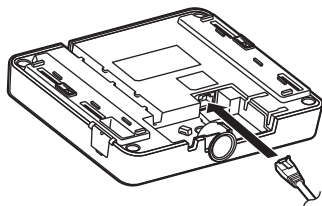
付属の木ねじ（4.1 mm×25 mm）4本で固定金具（付属品）を取り付けます。このとき固定金具の向きに注意してください。↑向きが製品の上方向になります。



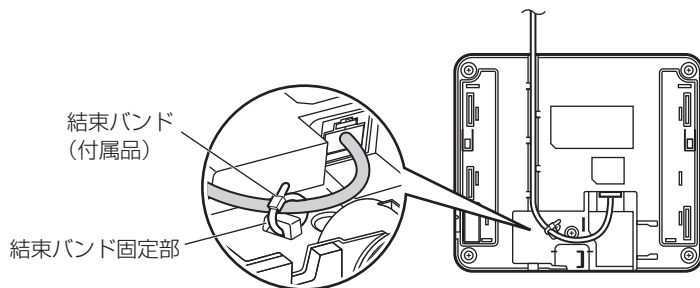
- ねじ1本あたりの最低引抜強度は、196 Nです。
- 石膏ボードや合板など、強度が弱い壁には取り付けないでください。やむを得ず取り付けの場合は十分な補強を施してください。
- 落下予防のために、付属品以外の木ねじや固定金具は使用しないでください。

2 ケーブルを本機に接続する

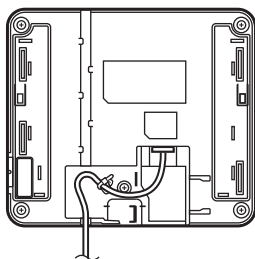
LANケーブル（14ページ）を本機と接続します。ケーブルの接続は「接続のしかた」（25ページ）をお読みください。



- 接続ケーブルを本機上部に引き出す場合は、下図のように結束バンド固定部に付属の結束バンドを通し、固定したあと、本機底面のケーブル固定溝に通して、ケーブルを本機上部に引き出してください。



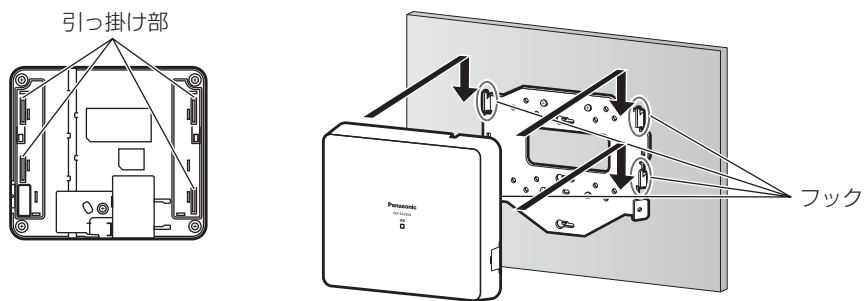
- 接続ケーブルを本機下部に引き出す場合は、下図のように結束バンド固定部に付属の結束バンドを通し固定してください。



設置のしかた

3 本機を設置する

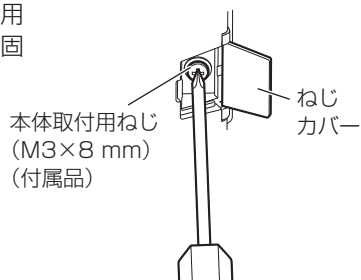
- ① 本機を固定金具のフックに引っ掛けます。(4か所)



- ② 本機側面のねじカバーを開けて、付属の本体取付用ねじ (M3×8 mm) を使って本機を固定金具に固定します。

- ねじ締付トルク : 0.59 N・m～0.69 N・m
{6 kgf・cm～7 kgf・cm}

- ③ ねじカバーを閉じます。



重要

- 落下防止のため、必ず本体取付用ねじを確実に締め付けてください。締め付けなかった場合、本機の落下につながります。



- トルクドライバーなどを使用し、指定されたトルクで確実に締め付けてください。
- ドライバーはマグネット付のビットを使用してください。

4 設置を確認する

設置完了後、すべての個所がきちんと固定されているか確認してください。緩んだ部分などがないかどうか確認してください。

■ 壁掛け設置（スイッチボックスを使用する場合）

本機からケーブルを外し、以下の手順にしたがって設置してください。

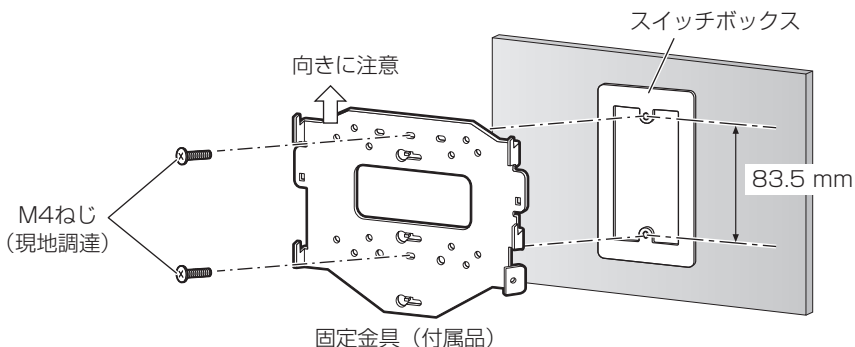


- 壁に設置する場合には、本機の高さを1.5 m以上にしてください。本機を低い場所へ設置する場合、目安のカバーエリアより短くなる場合があります。特に、本機とマイクの間を人が通過するような配置、金属製機器、家具は電波を遮蔽しやすいため、無線接続が不安定になったり、通話が途切れる場合があります。

1 固定金具を取り付ける

1個用または、2個用スイッチボックス（例：パナソニック製 品番：DS4911K、DS4912）を使って本機を取り付ける場合、まず、壁に設置されたスイッチボックスにM4ねじ2本（現地調達）を使って固定金具（付属品）を取り付けます。

このとき固定金具の向きに注意してください。↑向きが製品の上方向になります。

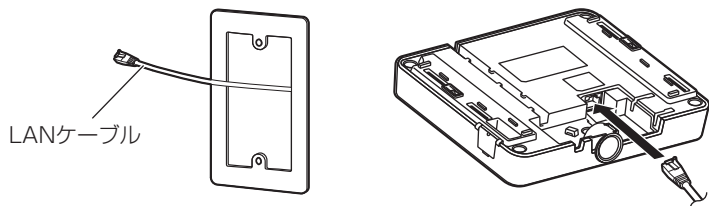


- ねじ1本あたりの最低引抜強度は、196 Nです。
- 落下予防のために、付属品以外の固定金具は使用しないでください。
- 屋外に設置する場合は、本機とスイッチボックス間の隙間から水が浸入しないように対策を施してください。

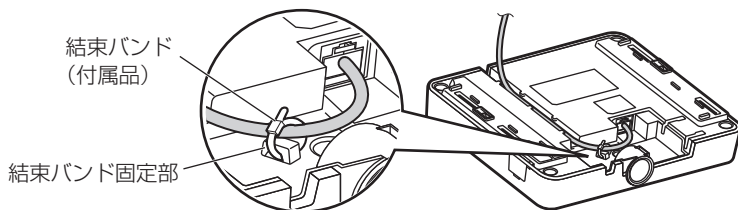
設置のしかた

2 ケーブルを本機に接続する

LANケーブル（14ページ）を本機と接続します。ケーブルの接続は「接続のしかた」（25ページ）をお読みください。

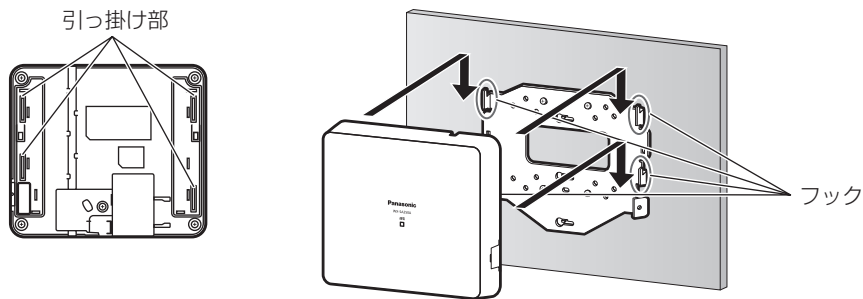


- 接続ケーブルは下図のように結束バンド固定部に付属の結束バンドを通し、固定したあと、本機底面のケーブル固定溝に途中まで通すと、本機設置時のケーブルの挟み込みが避けられます。



3 本機を設置する

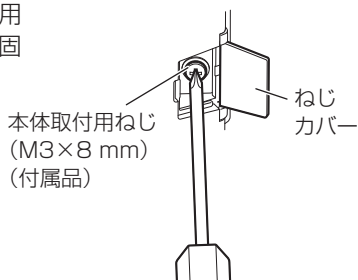
- ① 本機を固定金具のフックに引っ掛けます。(4か所)



- ② 本機側面のねじカバーを開けて、付属の本体取付用ねじ (M3×8 mm) を使って本機を固定金具に固定します。

- ねじ締めトルク : 0.59 N・m ~ 0.69 N・m
[6 kgf・cm ~ 7 kgf・cm]

- ③ ねじカバーを閉じます。



- 落下防止のため、必ず本体取付用ねじを確実に締め付けてください。締め付けなかった場合、本機の落下につながります。



- トルクドライバーなどを使用し、指定されたトルクで確実に締め付けてください。
- ドライバーはマグネット付のビットを使用してください。

4 設置を確認する

設置完了後、すべての個所がきちんと固定されているか確認してください。緩んだ部分などがないかどうか確認してください。

■ マイクスタンド取り付け



- マイクスタンドに取り付ける場合には、本機の高さを1 m以上にし、マイクから直視できる位置に設置してください。本機を低い場所へ設置する場合、目安のカバーエリアより短くなる場合があります。特に、本機とマイクの間を人が通過するような配置、金属製機器、家具は電波を遮蔽しやすいため、無線接続が不安定になったり、通話が途切れる場合があります。
- ケーブルに引っかかってマイクスタンドが転倒しないように配線処理を適切に実施してください。

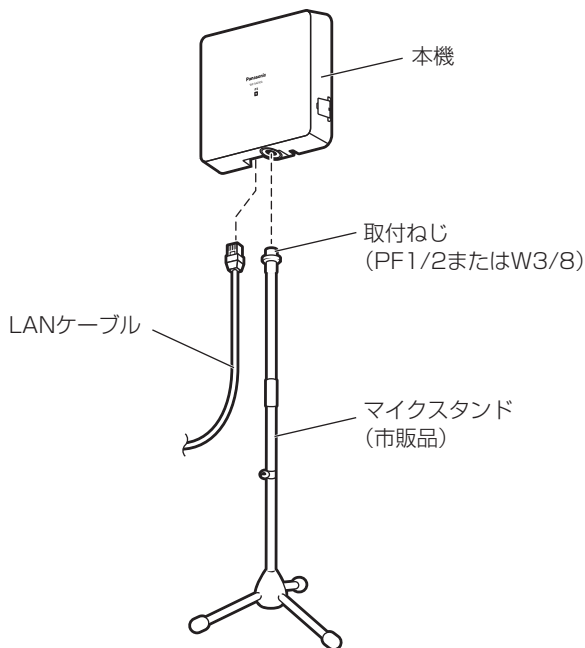
本機からケーブルを外し、以下の手順にしたがって取り付けてください。

1 本機に取り付ける

スタンド取り付け穴カバーを外し、スタンド取り付け穴にマイクスタンドの取付ねじを挿し込んで固定します。マイクスタンドは、取付ねじがPF1/2もしくはW3/8のスタンドを使用してください。取付ねじがW3/8のスタンドを使用する場合は付属の変換ねじを使用してください。

2 ケーブルを本機に接続する

LANケーブル（14ページ）を本機と接続します。ケーブルの接続は「接続のしかた」（25ページ）をお読みください。

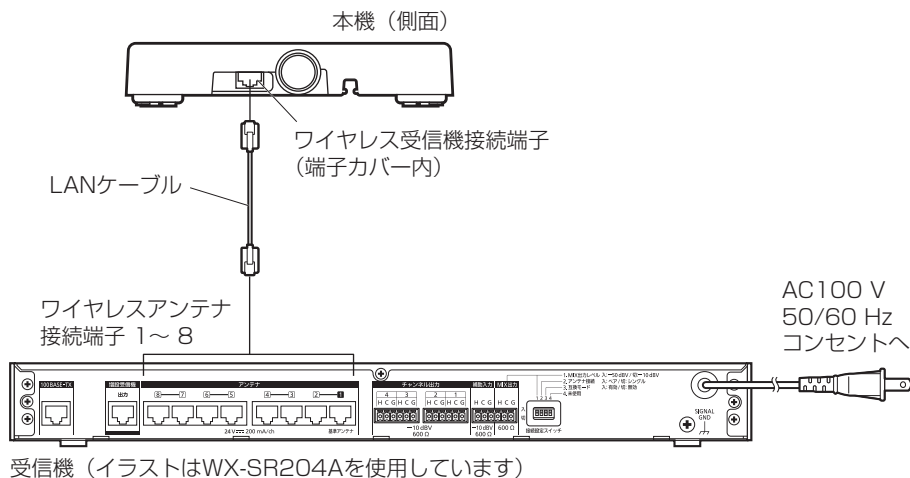


接続のしかた

■ 受信機の接続

本機を受信機と接続することにより、電源を受電でき、またマイクからの音声を受信機に出力し、受信機に接続されたアンプ、スピーカーから音声を出力することができます。

1 本機と受信機をLANケーブル（14ページ）で接続する



- 本機のワイヤレス受信機接続端子の仕様は本機専用となっています。本機をPoE給電装置（給電機能付きハブもしくはルーター）には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機と受信機は必ずストレートケーブルで接続してください。クロスケーブルで接続すると故障の原因になります。



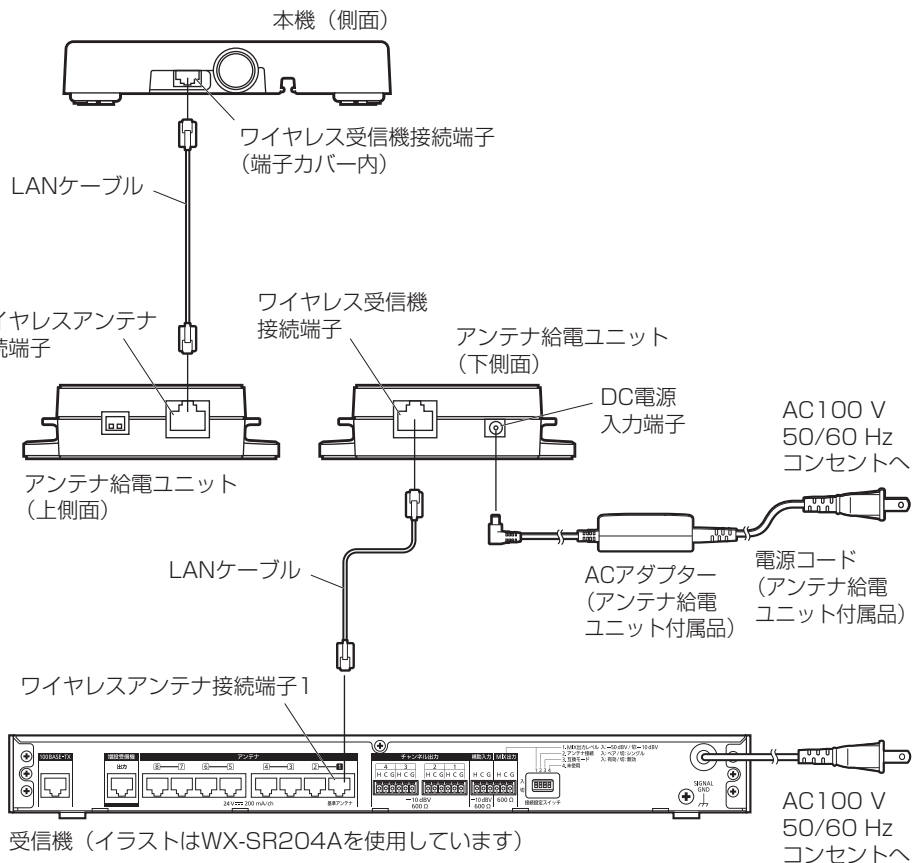
- LANケーブルは200 m以内のものを使用してください。

接続のしかた

■ アンテナ給電ユニットの接続（受信機ありの場合）

本機と受信機の間アンテナ給電ユニットを接続することで受信機の電源「入/切」に関わらず、本機に電源を供給できます。

1 本機とアンテナ給電ユニット、およびアンテナ給電ユニットと受信機をLANケーブル（14ページ）で接続する



**重要**

- 本機のワイヤレス受信機接続端子の仕様は本機専用となっています。本機をPoE給電装置（給電機能付きハブもしくはルーター）には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機とアンテナ給電ユニット、およびアンテナ給電ユニットと受信機は必ずストレートケーブルで接続してください。クロスケーブルで接続すると故障の原因になります。



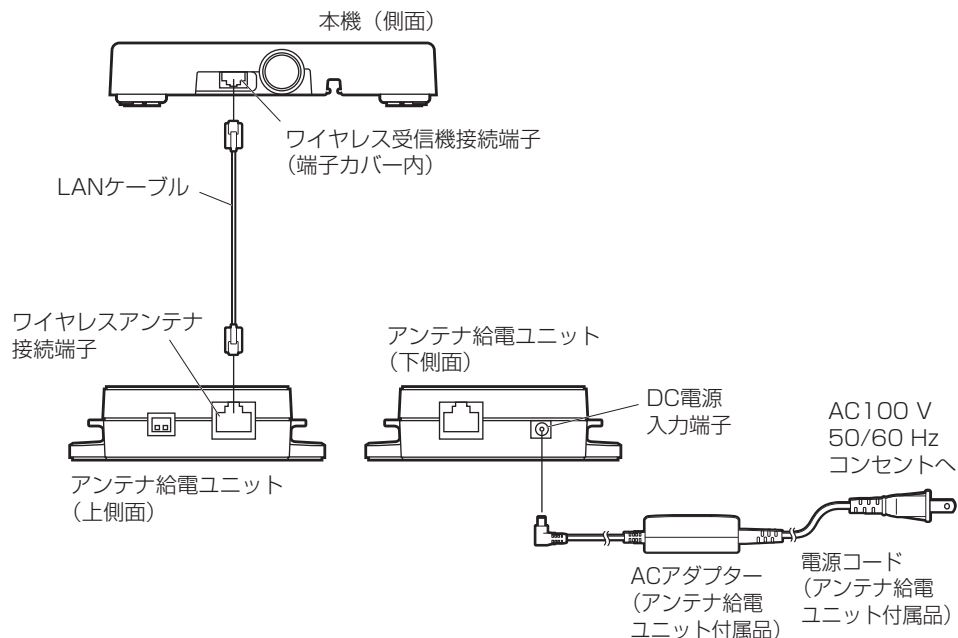
- LANケーブルは、本機－アンテナ給電ユニット間のケーブル長とアンテナ給電ユニット－受信機間のケーブル長の合計で200 m以内となるようにしてください。
- アンテナ給電ユニットのACアダプターは常時、AC100 Vが供給される電源コンセントに接続してください。電源制御ユニットに接続する場合は、電源制御ユニットの電源スイッチとリモートコントロールに連動しない電源コンセントに接続してください。
- 複数の受信システム（受信機）間の干渉を低減するため無線同期させて使用する際、その中の1つの受信機をメインシステムに設定する場合は、メインシステムに設定した受信機の基準アンテナ（受信機後面の [アンテナ1] 端子に接続されたアンテナ）を常時通電させる必要があります。アンテナ給電ユニットを使用することで受信機の電源が「切」の場合も基準アンテナの常時通電が可能となり、メインシステムに設定した受信機の常時通電が不要となります。詳しくは受信機の取扱説明書の「無線同期設定」をお読みください。

接続のしかた

■ アンテナ給電ユニットの接続（受信機なしの場合）

本機を受信機に接続せず、アンテナ給電ユニットのみと接続することにより、本機を常時通電させて複数の受信システム（受信機）と無線同期させる場合の同期専用アンテナとして使用することができます。

1 本機とアンテナ給電ユニットをLANケーブル（14ページ）で接続する



**重要**

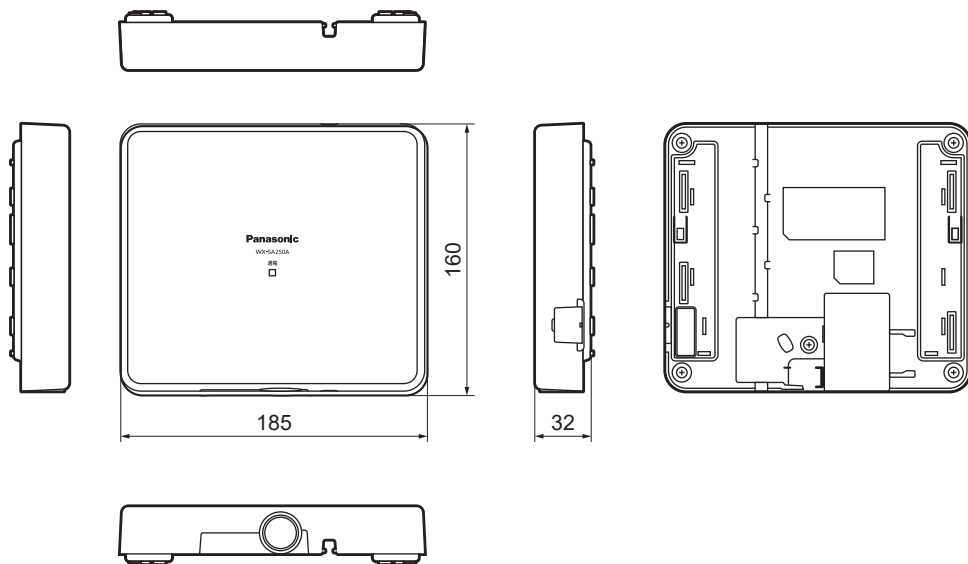
- 本機のワイヤレス受信機接続端子の仕様は本機専用となっています。本機をPoE給電装置（給電機能付きハブもしくはルーター）には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機とアンテナ給電ユニットは必ずストレートケーブルで接続してください。クロスケーブルで接続すると故障の原因になります。



- LANケーブルは、200 m以内のものを使用してください。
- アンテナ給電ユニットのACアダプターは常時、AC100 Vが供給される電源コンセントに接続してください。電源制御ユニットに接続する場合は、電源制御ユニットの電源スイッチとリモートコントロールに連動しない電源コンセントに接続してください。
- 複数の受信システム（受信機）間の干渉を低減するため無線同期させて使用する際、その中の1つの受信機をメインシステムに設定せず、同期専用アンテナを用いる場合は、アンテナにアンテナ給電ユニットのみを接続して、同期専用アンテナとして動作させてください。この場合は同期専用アンテナがメインシステムの基準アンテナ（受信機後面の「アンテナ1」端子に接続されたアンテナ）に相当しますので、無線同期させる他の受信機は常時通電が不要となります。詳しくは受信機の取扱説明書の「無線同期設定」をお読みください。

外形寸法図

単位：mm



その他

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象	原因・対策	参照ページ
[電源] 表示灯が点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源が供給されていますか？ ➡ 本機と受信機またはアンテナ給電ユニットの接続を確認してください。 	25～29
	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信機電源「入」後に新たなアンテナを接続していませんか？ ➡ アンテナを増設する場合は、受信機の電源を「切」にしてから、アンテナを接続してください。 	14
[電源] 表示灯が赤色点灯している	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信機との通信異常状態です。 ➡ 受信機の [電源] スイッチを「切」にして、再度「入」にしてください。 	11
	<ul style="list-style-type: none"> ● メインシステムの基準アンテナ以外のアンテナに、アンテナ給電ユニットを接続していませんか？ ➡ 誤って接続している場合は、アンテナ給電ユニットを取り外し、受信機の [電源] スイッチを「切」にして、再度「入」にしてください。 	11
[電源] 表示灯が赤色点滅している	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信機の電源起動後、受信機のワイヤレスアンテナ接続端子1に接続したアンテナとの接続異常が発生しました。 ➡ 受信機の [電源] スイッチを「切」にして、再度「入」にしてください。 	11
[電源] 表示灯が赤色／緑色交互点灯している	<ul style="list-style-type: none"> ● 受信機のファームウェアのバージョンアップが必要となります。 ➡ 販売店にお問い合わせください。 	11

仕様

無線	使用周波数	1895.616 MHz～1904.256 MHz
	アンテナ	内蔵アンテナ
	受信方式	ダイバーシティ受信
電源	コネクタ	RJ-45
	使用ケーブル	CAT5/CAT5e/CAT6ストレートケーブル
	供給元	ワイヤレス受信機 (WX-SR202A、WX-SR204AまたはWX-SR202、WX-SR204) アンテナ給電ユニット (WX-SA001)
アンテナ・フィールド選択	4段階切換	
表示 (インジケータ)	電源	
使用温度範囲	-10℃～+50℃	
使用湿度範囲	10%～90% (結露なきこと)	
寸法	約185 mm (幅) × 160 mm (高さ) × 32 mm (奥行き)	
質量	約400 g	
仕上げ	セイルホワイト (マンセルN9.3近似色)	
設置	天井、壁掛け、マイクスタンド	
防水性能	IPX4相当	

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電 話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは
「故障かな!?!」(31ページ)
でご確認のあと、LANケーブ
ルを抜いて、お買い上げ日と
右の内容をご連絡ください。

●製品名	ワイヤレスアンテナ
●品番	WX-SA250A
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

その他

高所設置製品に関するお願い

安全にお使いいただくために、1年に1回をめやすに、販売店または施工業者による点検をおすすめします。

本機を高所に設置してお使いの場合、落下によるけがや事故を未然に防止するため、下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 本機を使用せずに放置している。
- 取付ねじがゆるんだり、抜けたりしている。
- 取付部がぐらぐらしたり、傾いたりしている。
- 本機および取付部に破損や著しいさびがある。

直ちに使用を中止してください

- 事故防止のため、必ず販売店または施工業者に**撤去**を依頼してください。
- 事故防止のため、必ず販売店または施工業者に**点検**を依頼してください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

直ちに使用を中止してください

故障や事故防止のため、**電源を切り**、必ず販売店または施工業者に**点検や撤去**を依頼してください。

その他

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■ 使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■ その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バナハ ヨイフ 受付：9時～17時30分
(土・日・祝祭日は受付のみ)
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは

https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご使用の回線(IP電話やひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いたしております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Connect Co., Ltd. 2022

PGQX2345YA

FV0819-1042

Printed in Vietnam